

(10) 垂水地区

主な福祉課題	自分たちでできること
介護施設が必要だが、なかなか入れない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 民生委員・福祉ママの訪問を継続する。 ● 認知症サロンへの移動（参加）方法を考える。 ● 介護予防に力を入れていく（体操・食事等）。 ● 日頃からみんなが声かけをする ● 正しい医学知識を学ぶ。 ● 先進地に学ぶ。成功例を見つけて学ぶ。
買物場所や金融機関がない、遠くて不便。	<ul style="list-style-type: none"> ● コープの注文販売、フジグランのショッピング用バスを利用する。 ● 買物手伝い、買物代行をする。 ● ヘルパーさんを紹介する。 ● ATMを集落に1つ設置してもらえるよう要望する。 ● 乗り合わせバスの運用を要望する。
子育てについて	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の見守りが大切。 ● 青パトロール隊（7/17 出発式 3チーム） ● 学校だよりを地区でまわす。 ● 「たるみっ子集まれ」コミュニティ月一回開催する。 ● 愛育班とひなたぼっこの合同イベントをする。
家族が隠そうとするのでオープンにしてほしい。困ったときに支援ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 行政に情報を求める。 ● 近所づきあいで情報を得る。 ● いきいきサロンで情報交換する。 ● 民生委員が個別訪問して情報を収集する。 ● 困っているときに、声かけや手助けをする。
空き家が多い。	<ul style="list-style-type: none"> ● 空き家を増やさないようにする。 ● 若い人が帰ってくるような魅力あるまちづくりをする。 ● 空き家を貸す。（市から貸家情報を出せば…。）

(11) 本島地区

主な福祉課題	自分たちでできること
高齢者が集える場所（機会）がない。 <input type="checkbox"/> 世話人がいない。 <input type="checkbox"/> 声をかけても外へ出てこない。	<ul style="list-style-type: none"> ● サロンを開催する。細く長く続けていく。 ● 高齢者は何回も出てこないので、行事をまとめて開催する。 ● 行事のたびに、近所の人に声かけをする。 ● 保健師の健康相談を利用する。
医療費より通院交通費（フェリー代）の方が高い。	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通費の補助、小型バスを小エリアの住民の移動に使えるようにするなどを市長との懇談会で要望する。 ● 用事や通院をなるべくまとめて行く。 ● フェリー代について、フェリー会社に交渉する。
子どもが少ない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 島で婚活イベントをする。 ● 空き家を利用して、若い方に来てもらう。 ● 子どもが帰って来る環境づくりをする。
島で生活が難しくなると、施設入所するしかない。 診療所しかなく、急病時が心配。	<ul style="list-style-type: none"> ● 診療所の診療科を増やしてもらうよう市長との懇談会で要望する。 ● 救急車の特船版を要望する。 ● 近所の漁船で搬送する。 ● 近所で見守りをする。（火災にならないように）
障がいのある人がどこにいるかわからない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の人全体で、ふれあい給食などをする。
高齢者が多いので、災害時の対応が不安。	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域で避難訓練をする。

(12) 広島地区

主な福祉課題	自分たちでできること
急病時等の緊急対応	<ul style="list-style-type: none"> ● 毎日誰かに会うようにする。 ● 回覧板を手渡しして、安否確認をする。 ● 診療所をうまく使う（先生と顔を会わす）。 ● 地区で連絡方法を見直す。島全体の連絡方法を見直す。 ● 美容室の人から情報を収集する。 ● 誰もが訪問し、返事がない時に1人で入らず近所の人と家に入る。
買物支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 注文を聞いて、2日前までにまとめて注文。買物業者が自宅を訪問し、声かけ（安否確認）をする。 ● 買物の日に声かけをする。 ● 買物場所まで来れない人には、自宅まで商品を持っていく。 ● 体調が悪いときには、買物代行をする。 ● 買物の場所として、公民館を開放する。
認知症高齢者が増えている。ひとり暮らしのお年よりの対応が難しい。	<ul style="list-style-type: none"> ● ひとり暮らしのお宅をのぞいて、話しかける。話を聞いてあげる。 ● 1日1回は誰かが訪問してあげる。 ● 近所の人ができる限りサポートをする。 ● ストレスをためない。物事を思いつめない。 ● 食事の大切さを理解し、食事食材の確保するため、無農薬野菜を作って、おすそ分けをする。 ● 本人よりも親族（子ども）に対して支援する。 ● 運動の仲間づくりをする（健康づくり）。 ● 隣近所のつきあいを続ける。
子どもたちが来るためにはどうすればいいか。 ・受け入れ態勢ができない。 ・高齢者ばかりで世話ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ● トイレの看板をわかりやすくする。 ● 島めぐりのマップを利用する。 ● 「いろは石めぐり」を宣伝する。 ● 王頭山登山（ハイキング）に参加してもらう。 ● おじいさんおばあさんと一緒に子どもたちに来てもらう。
障がい者になった時 ・バリアフリー問題	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域で、見守りや声かけをする。 ● 家族が同居して支援する。
島の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ● 島外の人に来てもらえるよう情報発信する。 <ul style="list-style-type: none"> ・子供を連れて遊びにきてほしい。 ・来てもらってどんどころか知ってもらおう。 ・砂浜、芋抜きができる。 ● 孫や友人の子どもたちに声をかける。 ● ゴミ拾いをして、きれいにする。 ● 少しなら、食材の提供ができる。 ● 行政に環境整備（予算化）を要望する。

(13) 栗熊地区

主な福祉課題	自分たちでできること
高齢者などが集まれる場所がない。	<ul style="list-style-type: none"> ● いきいきサロンを実施し、若い人の参加も呼びかける。知っている人を呼び込む。 ● 自治会で敬老会を実施する。自治会での行事で居場所づくりをする。 ● 婦人会、老人会への参加を呼びかける。 ● 自治会などの行事に参加しない方の家族が役員などになる。 ● 空き家を利用して集まれる場所づくりをする。
移動手段がない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 乗合タクシーを利用する。 ● 移動販売車、生協に来てもらう。 ● 隣近所とコミュニケーションを図り、買物代行などの助け合いをする。
<p>老々介護が増加、支援者が必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭の事情を近所の人に話せない。 ・ 情報を提供したいが本人が希望しないと出来ない。 ・ おせっかいと捉えられ、難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護者の話をきく。 ● 民生委員、福祉ママ、福祉協力員が情報提供をする。 ● 介護保険の制度サービスをうまく利用できるよう情報提供する。 ● 生きがい農業（田んぼや畑）をする。趣味や仕事など、動ける間は動く。 ● 話し相手になる。 ● 日頃からの近所づきあいを大切にする。 ● 認知症等の講習会をする。 ● いきいきサロンをつくる。
少子化問題	<ul style="list-style-type: none"> ● 魅力ある町づくりをして、地域の強みをPRする。 ● レオマワールドをPRして、観光客を呼び込むことで、雇用の拡大につながる。 ● 空き家や休耕田を利用して、田舎体験（夏休みなどの時期）を実施する。 ● わらじづくり、栗ひろい、昔のあそびなどの伝承体験を教える。 ● 婚活を開催する。
<p>家族が隠そうとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近くにどの程度の障がいをもっている人がいるか分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 障がい者やその家族との交流を大事にすることで、情報を共有する。 ● 民生委員等が持っている情報を共有する。 ● 「すみよしカフェ」（会員制・1回100円コーヒー）を飲みに来る人から情報を得る。 ● 「クリックマン」みまもり隊を拡大する。 ● 会話をする人の範囲を広げ、「助けてほしい」と思う人の声をひろう。
高齢化による自治会の消滅	<ul style="list-style-type: none"> ● お寄りさんを負担にならない程度に簡素化する。 ● 広報紙の内容がお寄りさんの共通の話題となるよう広報誌を活用する。

(14) 岡田地区

主な福祉課題	自分たちでできること
<p>病院や買物場所、銀行、郵便局などが遠いので、車を運転できない者はどうすればよいのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 買物等をどこでするかを、コミュニティでアンケートをとる。 ● 生協や移動販売を利用する。 ● パソコンを使って買物をする。 ● 買物代行を利用する。 ● 有償ボランティアを利用する。 ● 近所で外出の際に声かけをし、一緒に乗せていってもらおう。 ● 地域で支援者を募集するなど、地域内でたすけあいのしくみをつくる。 ● タクシー会社とコラボレーションして、買物支援・移動支援ができないのか検討する。
<p>いきいきサロンに誘ってもなかなか出てきてくれない。ほとんどが女性で、男性会員が少ないため参加しない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● デイサービスなどに行く人もあり、声かけする対象がはっきりしていないため、サロン参加対象者をはっきりさせる。 ● 集まる場所を考える。公民館・集会場など使える場所をどんどん使う。 ● 男性のひとり暮らしに声かけをする。 ● サロンへの送迎方法を考える。 ● いきいきサロンの目的をチラシなどで広報する。地域の人一人ひとりに周知する。 ● ボランティアだけでなく、参加者全員でサロンを運営する。 ● 来やすい雰囲気をつくる。 ● 中心になる若い人をサロンにいれる。
<p>子どもが外で遊ばなくなっている。一人でゲームで遊ぶ子どもが多い。安全な屋外の遊び場がほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 子ども会を活性化する。 ● 公園を自治会が管理する、公園の草ぬきをするなど、遊ぶ場を整備する。 ● 子ども自身が何をしたいか考えさせ、大人が指示しないようにする。 ● コミュニティが支援して、子ども同士のお泊り会を実施する。 ● 高齢者の知恵を借りて、昔の遊びを教える。
<p>障がい者がいるかどうかわからない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 防犯対策で地域内の障がい者を把握する。 ● 制度の狭間のちょっとした困りごとの助け合いのしくみをつくる。 (自治会・民生委員の連携)
<p>いのししの被害、野犬が増えて困っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 1軒だけで対策をせず、地域ぐるみで対策をたてる。 ● 柵をたてる申請を市にする。山ぎわの柵を電気の柵にする。(市から支給) ● 自治会で野犬にえさをやる人に注意する。 ● 子どもの通学路は、野犬から守るように大人が見守る。 ● 山の中で生きられるよう、荒れた山を元にもどす。

(15) 富熊地区

主な福祉課題	自分たちでできること
<p>交通手段がなく、買物や通院に困っている高齢者が多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢になると動けなくなる（外出）できない。 ・自宅から最寄りのバス停迄の歩行が困難。 ・目的地のバス停から病院・買物場所までの歩行が困難。 	<ul style="list-style-type: none"> ● いきいきサロンや老人会などで、車を動かせる人が買物や病院へ困っている人を乗せていくことを考える。 (保険さえあれば、個人でも乗せてあげる事が可能) ● 地域住民が助け合い、買物代行、移動支援を行う。 ● 移動サービス（介護タクシーの利用方法がわからない方など）の情報を提供する。 ● 買物は、注文販売（コープなど）や移動販売を利用する。 ● タクシー助成、コミュニティバスの自由乗降、コミュニティバスの便数・ルートなどを、行政に要望する。
<p>親が自分勝手に、子どもを育てる意識が低い親がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 若い世帯は、あいさつを心がけるようにする。 ● 子どもだけで作品を作ったり、イベントをやってみる。 ● 親のみの（研修）イベントを行う。
<p>障がい者の情報がない。接し方がわからない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 障がい者の話を聞く。 ● 障がい者の家族を支援し、信頼関係をつくる。
<p>ひとり暮らしが増加。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ひきこもりの高齢者が多いので、近所の人とのつき合いを多くする。 ● ひとり暮らしの高齢者で介護等の支援の受け方が知らない方がいるため、介護サービスなどの情報を提供する。
<p>防災に関心が少ない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 災害時の連絡方法、防災備品の保管場所などの情報を伝える。 ● 災害時のひとり暮らし世帯などへのサポート体制について、話し合う。

(16) 飯山南地区

主な福祉課題	自分たちでできること
高齢者の話し相手がない。	<ul style="list-style-type: none"> ● DVD鑑賞など、地域住民が集まる機会をつくる。 ● 隣近所の人が積極的に声かけ（あいさつ等）をする。 ● いきいきサロンに声かけして参加してもらう。 ● 歩いて行ける範囲に、高齢者が集まれる楽しい場所をつくる。 ● 高齢者と子どもたちが一緒に楽しめるイベントを企画する（運動会等）。 ● 行事のたびに声かけして、外へ連れ出す。 ● 回覧板は郵便受けに入れるだけでなく、チャイムを押し、手渡し、何でもよいから話しかける。 ● 高齢者宅を訪問し、まずは関係づくりを行う。 ● 声かけを迷惑がる人もいるので、助けを求めやすい環境、関係づくりをする。 ● 将来のために今からつながりを持っておく
交通が不便で、買物や病院への移動手段の確保が必要。	<ul style="list-style-type: none"> ● あいあいタクシーのあい乗り（安価）を利用する。 ● コミュニティバスの便数を増やすよう市へ要望する。 ● コープの宅配を利用する。 ● 日頃のつき合いの中で、助けあえる関係づくりをする。 ● たすけあいサービスの周知を図る。 ● 娘や息子、孫と一緒に食事をしながら、日常生活について話をする機会を設ける
子どもに声をかけにくい。（子どもが少ない）	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学校の行事に参加するなど、顔の見える関係づくりをする。 ● パトロールなどを通して、小学校とコミュニティとの関係づくりを行う。 ● 子ども会活動で、親との交流を図る。親との関係づくりを行う。 ● 子どもをほめる。 ● 教育についての研修や話し合いの機会をもつ。
障がい者への接し方がわからない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 障がい者理解のため、地域で勉強会をする。養護学校の先生に講演してもらう。 ● 障がい者施設の職員との話し合いの場を設け、色々と質問してみる。 ● 施設を訪問し、障がい者と接する機会を増やす。障がい者の特技（パンづくり、置き物づくり等）について聞いてみる。 ● 障がい者のいきいきサロンをつくる。 ● 会ったらあいさつをする。障がい者という意識を持ちすぎず、普通につきあう。 ● 車いす体験等のイベントで、障がいを体験して、理解を深める。
自治会の高齢化。自治会脱退者が増加している。自治会（コミュニティ）の用事が多過ぎる。	<ul style="list-style-type: none"> ● 民生委員や福祉ママさんなど、自治会の中心になる人をつくる。 ● 自治会のメリットを住民に伝える。 ● 近所の寄り合い、顔を合わせる機会をもっとつくる。 ● コミュニティまつりで自治会のPRをする。 ● 3世代で集まれる行事をする。子どもをまきこめば親が参加する。 ● ラジオ体操など、子どもから高齢者まで参加できるものをする。 ● 行事は必要なものに出ればよい。負担軽減の方法を考えていく。

(17) 飯山北地区

主な福祉課題	自分たちでできること
ひとり暮らしの高齢者の安否確認がむずかしい。	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者を孤立させないよう、とにかく声かけをする。 ● 回覧板を回す時に安否確認する。 ● 自治会、民生委員、福祉ママ等による安否確認の頻度を多くする。 ● 玄関先に旗等の目印を立てて、安否確認を行う。 ● ゴミ出しが出来ているかどうかで、安否確認する。 ● 家族と安否確認の方法を決める。 ● 遠方の家族と、時刻を決めて電話をかけ合う。
高齢者の地域交流が減ってきている。	<ul style="list-style-type: none"> ● 老人クラブの活性化を図る。組織強化を図る。 ● 健康について興味がある人が多くなっているので、健康に関する行事を実施する。(チャレンジデーで骨密度測定の定例化など) ● 趣味活動ができる場づくりを行う。 ● 高齢者に必要な地域の情報をピックアップして、A4サイズの紙に書いて渡す(郵送:70歳以上)。高齢者施設などの広告を入れて費用に使用する。
子どもを叱る地域の人がない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 叱り方を学ぶセミナーを開催する。 ● PTAが中心となり、親の教育を考える。 ● 高齢者と子どもたちとの交流の場をつくる。高齢者が立哨当番をする。 ● 幼い頃から地域の人と交流することで、信頼関係を築く。 ● 子どもたちに顔を知ってもらい、信頼関係を築く。 ● とにかく子どもの話をよく聞く(話を聞いてくれる人の存在が必要)。 ● 上から目線で叱らないようにする。
地域と障がい者施設との連携強化。	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域のイベントに障がい者の参加を増やす。 ● 地域の人が施設でボランティアをする。 ● 障がいに対する理解と認識を深める勉強会をいきいき講座の中で行う。 ● 趣味の会の中へ、障がいをもった方も一諸に入ってもらい、障がいについて自然に学ぶ。
空き家等の問題。	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者世帯の農地や空き家の活用を、地域で考えていく。 ● 空き家、農地の困り事の声を、行政に上げていく。 ● 危険個所を発見したら、すぐに報告・連絡を行う。

5. 関係団体ヒアリング調査結果概要

《ヒアリング対象団体》

対象区分	対象団体
当事者	ひきこもり自助グループ Lamp
	丸亀市身体障害者福祉連合協会
当事者・従事者	しおや保育所
従事者	丸亀市福祉ママ会議連合会
	丸亀市民生委員児童委員協議会連合会 主任児童委員部会
	特別養護老人ホーム紅山荘
	救護施設萬象園

《結果概要》

従事者・当事者に分けて、各団体の意見を、分野ごとにまとめると次のとおりです。

◆従事者の主な意見（地域福祉に関連する意見のみ）

分野	意見
子ども	<p><少子化対策></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 婚活の場を増やす。 ● 結婚して子どもを産める社会づくり、雇用制度の改善を図ることが必要。 ● 婚活に予算を取って、はたして、出産、子育てにつながるのか疑問。 <p><子育て支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子育てについての悩みは、子育て支援センター（市内に6か所）に行けばだいたい解決できる。 ● 地域にサポートセンターを開設してはどうか。 ● 以前は、育成センターが各コミュニティセンターを訪問し相談を受けていたが、今はしていない。いつでも、悩みが言える、聞ける場所が必要。 ● 「友遊」は狭い、整備が必要。 ● 親を支える親が必要。親が元気になれば、子どもの安心につながる。親がイライラすれば、子どもにあたってしまい、虐待につながる。 ● 子育て支援が遅れている。高齢者支援ばかり進んでいる。善通寺市の子育て支援は進んでいる。 ● 子育て中の母親が必要としているのは、10分でも預かってくれる場所。 ● 若い低所得の方にとっては、ファミサポの料金が負担。

<p>子ども</p>	<p><子どもの見守り等></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子どもに注意する人が少ない。近所の子どもを叱ることができない ● 不審者問題で、子どもに気軽に挨拶できない。 ● 子どもを犯罪から守るための目配りが必要。 ● 事件が多いので、女の子を持つ親は心配だと思う。 <p><保育サービス等></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 青い鳥教室の充実。 ● 仕事が先に見つかっていなかったら、保育所に預かってもらえない。 ● 幼保一元化を進めて、希望者が全員入れるように。 <p><子どもの居場所・活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子どもたちが安心して遊ぶ所がない。安全に遊べる公園がない。 ● 子ども会がなくなり、自治会の中でも親子同志の交流がない。 <p><教育、学校との連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子どもを守るだけではなく、子ども自身に、安全に生きていける術を身につけさせる教育が必要。 ● 学校からの情報が入ってこない。 ● 学校との連携が重要。垂水地区は学校と連携が図れている。 ● 学校（校長）の考え方で対応が異なる。 ● 主任児童委員の内2／3が小学校の評議委員をしている。保育所、幼稚園、中学校はゼロ。 ● 学校が、主任児童委員を知らない。 ● 親が子どもをあんまり叱らない。学校の責任にするなど、親に問題がある。
<p>高齢者</p>	<p><地域における支援方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 独居世帯への目配り、気配りが重要。特に自治会のないところにいる高齢者への目配りが必要。 ● ひとり暮らしの高齢者で、民生委員や近所の人への介入を拒否する人にどう接するかが難しい。 ● ひとり暮らしの人はいつも話し相手がほしいので、訪ねて相手になる人が各地域にほしい。民生委員訪問では足りない。 ● 福祉協力員、福祉ママ、民生委員がどのように連携をとって協力していくのかわからない。 <p><生活支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 買物難民対策が必要。 ● 高齢者が使える安価な交通手段の確保（高齢者の自転車、自転車運転は危険）。 ● 高齢者男性のひとり暮らしは食事の管理が悪い。 <p><情報></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 寝たきり高齢者、ひとり暮らし高齢者等の把握ができていない。 ● 調査がしやすいようにしてほしい。